

CL 季刊誌講読所感

C. S.



平成30年4月7日

CL 季刊誌秋の号の頃は用事が多くバタバタしておりました。秋の号を読み返すと初めて読むように新鮮でした。忙しいことを言い訳に軽く読み流しただけだったのでしょう。

むーらんさんが、ご自分の長い髪を寄付されたところが強く残りました。髪を失ったお子さんたちのウィッグを作っている団体に髪を贈るという、とても優しい行動ですね。むーらんさんの利他的な生き方の顕れと思いました。

ベリーショートの方は髪を伸ばすのが大の苦手です。私にはできないことです。それに、白髪まじりではお子さんに断られるのでは。

冬の号にむーらんさんのお名前がありませんでした。季刊誌はむーらんさんの「CL diary」を最初に読ませて頂いているので寂しく思いました。親しみのある日誌から、こんな風に CL を毎日の生活に取り入れることができるかと教えて頂くばかりです。ありがとうございます。

冬の号 CL News letter vol.19, No.11 から

侮辱とプライドについて書かれた文章から考える時間が始まりました。

差別を受けたと思う瞬間が多くあります。侮辱の対義語は尊敬ということで、私の差別されたという感情は、他の人に評価されなかったという思いではと気付きました。差別ではなく、自分自身を過大評価していたのかもしれない。事実の支援を受けて乗り越えられたことを、なにか自分の力と間違えていたのかもしれない。

「建設的な生き方上級実践課題 (1)あなたはどう答えますか」

難しい問いばかりで答えられませんでした。

- ・突然友人から、妻が自動車事故で死んだという電話を受けました。どう応じますか？
靴を磨きましょうか？
アイロンをかけましょうか？
出掛けた後、掃除をしておきましょうか？
一緒に行きましょうか？ などでしょうか。

(3) そのほかの課題と問題

・ペットが教えてくれたことは。

猫からは、こんなに凶々しく振る舞ってもいいのだと教わりました。

一緒にいてくれる大切なぬくもりです。大事な家族ですが 10 から 20 年の短い命で悲しみが訪れます。楽しかった分悲しみも大きいですが、楽しかった日々を思い出すだけでほっこりした気持ちになります。ペットとの楽しい思い出から生活のエネルギーをもらえます。

あんなにペットたちに尽くしてもらったのに、私は十分な恩返しが出来なかった。同じように、常日頃、お世話になっている方に薄情なことばかり繰り返していると気付かされます。

冬の号の宿題は難しいものばかりでした。ヒントや模範解答をお願い致します。

なかたかなえさんのワンちゃんのハナちゃんは目が見えないそうですが、私は盲目のワンちゃんに会ったことがないのです。17 年間もハナちゃんを大切にお世話されたご家族を尊敬致します。とても立派なご家族ですね。

かなえさんから、ハナちゃんとのエピソードをいっぱい教そわりたいです。

・「荒行終われば、リタイヤしたら、普通の人」から

ひとつの食べ物を半分にしてお互いに一緒に食べる。同じ屋根の下に住む協力し合う者同志関係でお互い空気のような存在。と書かれ、とても理想的なスタイルと教わりました。お二人が互いに思いやり、きちんとルールを守っているから穏やかに暮らせるというお手本ですね。

当地では桜が満開です。毎年、思うのですが、桜が咲くと、雨が降り、風が強くと吹きます。折角、折角咲いた桜ですから、しばらくは穏やかな天候が続いて欲しいものです。それなのに…桜からも、人生の厳しさが伝わってくるようです。(岩手県大船渡市)



 [目次へ戻る](#)